

経営比較分析表（令和6年度決算）

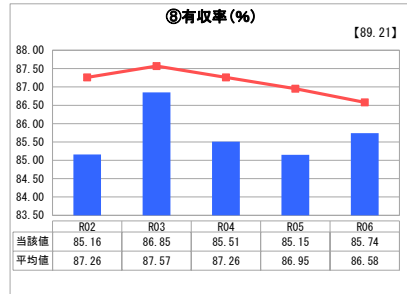
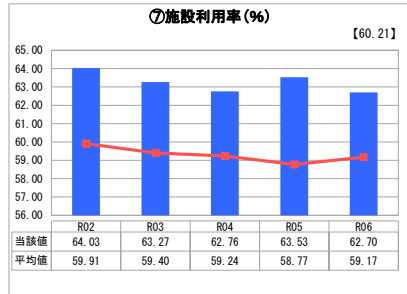
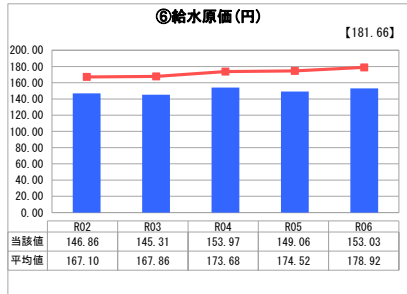
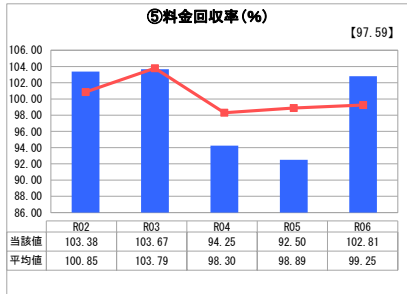
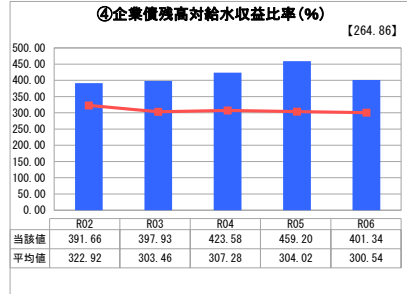
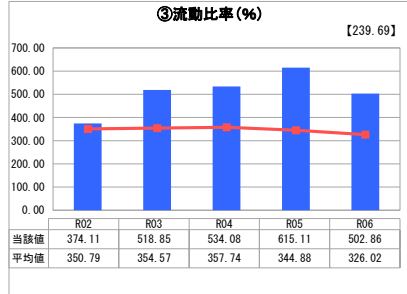
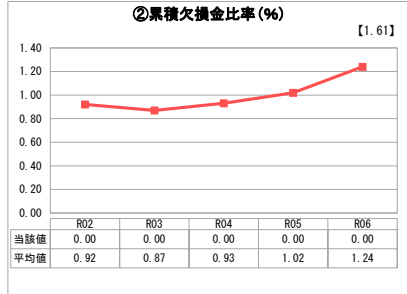
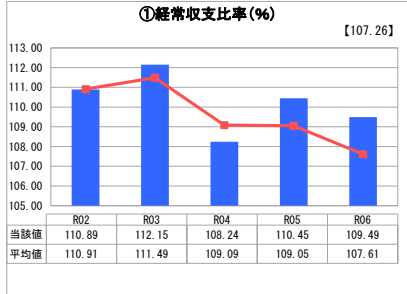
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.82	99.98	2,970	

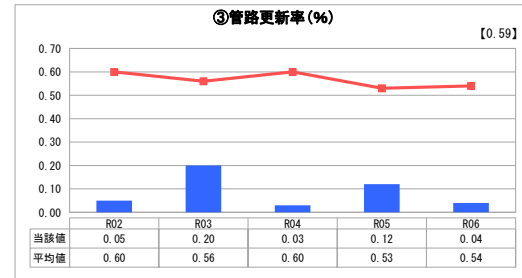
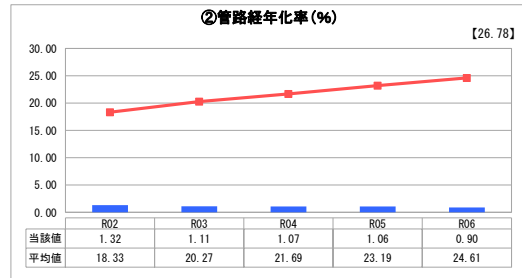
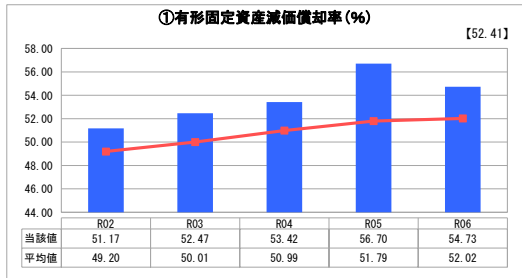
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
53,696	58.64	915.69
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
53,505	58.64	912.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
⇒指標が100%を上回り、経営の健全性を確保しています。今後も原料価格高騰による経常費用の増加が見込まれることから、健全経営に向けて費用削減や適切な給水収益の確保など、経営の合理化に努めます。

②累積欠損比率
⇒累積欠損金はありません。

③流動比率
⇒指標は100%を上回っており、短期的な支払いに要する現金等の確保が図られています。

④企業債残高対給水収益比率
⇒R6年度は基本料金の免除を実施しなかったため、過去2年間に比べ、給水収益が増加したことにより、数値は改善しております。しかし依然、類似団体、全国平均値より、高い水準となっております。今後も企業債への過度な依存で経営を圧迫しないよう、計画的な施設の更新を進めていきます。

⑤料金回収率
⇒R6年度は基本料金の免除を実施しなかったため、過去2年間に比べ、高い数値となっておりますが、厳しい傾向は今後も継続していくことが見込まれるため、適切な給水収益の確保に努める必要があります。

⑥給水原価
⇒類似団体、全国平均値を下回っていますが、今後は原料価格高騰による経常費用の増加、施設の更新に伴う減価償却費の増加が見込まれるため、費用の削減に努めます。

⑦施設利用率
⇒類似団体、全国平均値を上回っていますが、将来的には、給水人口や水需要予測を考慮した、適切な施設規模に更新を行う必要があると考えられます。

⑧有収率
⇒漏水や配水管布設工事等に伴う排空作業の影響から、類似団体、全国平均値よりも低い数値となっております。漏水調査や策定中の管路耐震化・更新計画に沿った、老朽管の更新や適切な維持管理を行う必要があります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
⇒類似団体、全国平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な施設・管路の更新が必要となります。

②管路経年化率
⇒布設年を把握できていない管があり、石綿セメント管及び錆鉄管のみの計上となっているため、類似比較団体より極端に低い水準となっております。今後、管路耐震化・更新計画策定過程において、全ての管種について、管路布設年を明らかにし、法定耐用年数を経過した管路を把握し、正確な数値に修正していく必要があります。

③管路更新率
⇒類似団体、全国平均値を下回っています。安定給水のため、管路更新計画に基づき、計画的に老朽管の更新事業を進めていく必要があります。

全体総括

経営の健全性・効率性については、累積欠損金がなく、現状は概ね健全な経営状態を保っています。しかし、企業債を財源とした、浄水場等の大規模改修を予定しているため、企業債残高対給水収益比率の増加が予測され、今後の経営は厳しくなるものと考えられます。今後策定する経営戦略に基づき、健全な事業経営に努めます。

R6・12月に料金改定を行いました。給水収益への反映は2月分であったため、効果は限定的でした。R7年度は料金改定に伴う給水収益の効果検証を実施します。

また、老朽化の状況については、管路経年化率において、布設年を把握できていない管があり、極端に低い水準となっております。現在の策定中の管路耐震化・更新計画において、全ての管種について、管路布設年を明らかにし、正確な数値に修正していきます。計画的な施設・管路の更新により、施設利用率や有収率の向上を図り、健全な事業経営に繋げていく必要があります。